

## 南ぬ島石垣空港国際線ターミナルの施設拡張及び機能拡充を求める要請決議

本年3月7日に開港した南ぬ島石垣空港は、2000Mの滑走路と安定した運航が可能となる航空保安施設等を備えた本格的ジェット化空港として開港し、今後増大する航空需要に対応できる八重山圏域の新たな玄関口として、地域住民の利便性の向上、地域の振興発展に大きく貢献すると期待されている。

南ぬ島石垣空港は、我が国最南端の国際線が常時就航可能な施設と機能を有しており、開港後から台湾や韓国からのチャーター便が就航し、5月には台湾の航空会社が、台湾最大の国際空港である台湾桃園国際空港と南ぬ島石垣空港間を将来の定期便化を視野にした定期チャーター便を就航させ、更に別の台湾の航空会社も定期チャーター便の就航を計画しており、南ぬ島石垣空港に就航する国際線は、今後も増加していくと予想される。

しかしながら、南ぬ島石垣空港の国際線ターミナルは、旧石垣空港の国際線就航実績をもとに計画された施設であり、現在、南ぬ島石垣空港に就航している国際線の大型化された航空機の利用では、利用者が出入国手続きや搭乗手続きの際に十分な待機スペースが無く、屋外で待機しなければならない状況であることや、搭乗待合室も利用者を収容するには広さに余裕が無く狭隘である。

また、施設内に案内アナウンスや案内表示板、チェックイン端末の機器や外線・内線等の回線が整備されておらず、航空会社や地上業務を行う企業から、受入業務が充分に行えず、増加傾向にある航空需要への対応が困難であることから、早急に施設の拡張と改善の要望が強くなされている。

沖縄県は、政府のアジア・ゲートウェイ構想を推進する拠点形成に取り組んでおり、我が国最南端の国際線就航可能な南ぬ島石垣空港は、同構想の拠点形成の一翼を担う空港となることが期待されている。

よって、本市議会は、南ぬ島石垣空港の空港管理者である沖縄県が先頭に立ち、石垣市及び空港ターミナルビルと一体となり、南ぬ島石垣空港国際線ターミナルの施設拡張と機能拡充を早急に行うことを強く要請する。

以上、決議する。

平成25年6月25日

沖縄県石垣市議会

あて先

沖縄県知事、沖縄県議会議長、八重山選出沖縄県議会議員